

射水



第2号

射水神社社報
平成16年5月発行

社頭より

宮司 松本 正昭



当神社の鎮座地は街の真中にありながら、公園の緑に囲まれ、地の利に恵まれた環境であります。四季折々に我々を和ませ、生氣を与えてくれております。

恵まれた自然環境の下に、神明に奉仕させて戴いてることに感謝すると共に、先人が自然との調和の中に日本文化を作り成した事に、日本人のすばらしさを感じさせてくれます。昨今、親子の絆を疑うような出来事が続発しており、家庭崩壊に繋がるような社会状況にあるよう危惧されます。

何が如何してこのような出来事が起きたのかを考えてみた場合、戦後、目覚しい経済の発展と共に、日本の心を置き去りにしてきたのではないでしょうか。

それに比べれば、日本は自然に恵まれております。ありがたい事

元来、日本人というのは、非常に素直な国民性をもつた民族であり、四季折々の変化に伴い自然環境というものに敏感に感じとり、その中に神の存在を意識しながら自然界の恐ろしさ、自然の恵みに対する畏敬の念と感謝の念をもちながら、自然のなかに宿す八百万の神を拝む心から、日本の文化を生み出し、日本人の心を育んできたのであります。

世界の民族の中には、灼熱の太陽の下で生活を余儀なくされるため、自然、特に太陽を悪魔とするところもあります。又、森は、邪惡なものが住むという思想から自然を破壊し、国家存亡の危機にある民族もあります。

天皇の御製に「良きはとり 悪しきはすて 外国に劣らぬ国となすよしもがな」と歌われておりますように、大御心を礎に、私たちの先祖は、他国に劣らぬ、誇るにたる國を作り上げてきたのであります。

それが今の日本はどうでしょうか。日本の良いところは惜しみなく頂ければ幸いに存じます。

捨てて、非常に安易な感覚で外国

に、農耕民族であるところから、共同社会を作り、稲作に欠かすことの出来ない水の恵みを自然界の山より戴いてきたわけであります。それ故に、自然に対する思いが生まれ、又、共同社会から生まれた人を思いやる心を育み、そして自然を守り伝えてこれたわけであります。その恵まれた中に素直な心を育み、外来文化を取り入れたよううに、良い物であれば素直に受け入れ、その持つ価値を尊敬し排斥するという偏狭さはなく、明治天皇の御製に「良きはとり 悪しきはすて 外国に劣らぬ国となすよしもがな」と歌われておりますように、大御心を礎に、私たちの先祖は、他国に劣らぬ、誇るにたる國を作り上げてきたのであります。

来る十月九日午後六時より当神社境内において、日本の伝統音楽に触れる意味におきまして「雅楽と舞楽の夕べ」と題し、鑑賞会を開催致しますので、是非お出向き頂ければ幸いに存じます。

文化をうけいれているように見えなくもないであります。

もう一度、先人の文化や思想の受け入れ方を考える必要があると思ふ訳であります。

日本には、自然から育まれた文化を受け継ぎ来たれる万世一系の天皇制という柱があります。搖ぎ無い柱の基に大変恵まれた国柄なのでありますから、そういう日本の良さを自覚し、相手を思いやる心を再び喚起しなければ、今の荒んだ世の中から抜け出すことはできないと思うわけであります。

社の景色（上半期）

1月1日 歳旦祭 初詣	1月14日 左義長(射水の火祭)
2月節分 節分祭	
2月11日 紀元祭	
2月17日 祈年祭	
4月18日 日吉社春祭	
4月23日 春季例大祭	
4月25日 院内社春祭	
4月29日 植樹祭	
5月13日 惡王子社春祭	
6月27日 鎮火祭	
6月30日 夏越大祓	

春季例大祭



本年も恒例の春季例大祭が執り行されました。生憎の小雨模様にもかかわらず、約六十人の崇敬者が神恩報謝の誠を捧げるべく参集されました。祭典執行は午前十時より、大祭の式次第に則り祭儀は厳粛に斎行され、ご参列の渡辺辰男奉贊会長をはじめ崇敬者各位、又県内各社の宮司様など、敬神の念厚き良男良女の方々が、次々に玉串を捧げ拝礼されました。

中でも本装束を身にまとい、巫女が「浦安の舞」を舞う姿は、参列者から感嘆の声が上がりました。来年もまた、本年以上の賑わいであるよう、皆様のご助力をお願いいたします。

植樹祭



本年四月二十九日午前十時より、射水神社において、植樹祭が厳粛に執り行われました。

四月二十九日といえば、戦後（昭和二十三年）は、昭和天皇の御世の天皇誕生日として、国民等しく奉祝してまいりましたが、昭和天皇崩御の後は、自然をこよなく愛した昭和天皇の遺徳をしのびつつ、「みどりの日」として、国の祝日に定められました。昭和天皇が、終戦の混乱期から、わが国を現在の発展に導いた事績



に加え、我が国の国柄である、自然に対する畏敬の念を国民が久しく持ち続けるべく、全国に行幸され、全国植樹祭を実践されておられ、又今上陛下におかれましてもそれを継続される意義を再認識し、昭和という時代を回顧してみてはいかがでしょうか？

祭事のご案内

なごし

おおはらい

夏越の『大祓』御案内

古式による夏越の大祓を社頭に「茅の輪」を設け左記の通り、執り行いますので、お誘い合せの上、御参列下さい。
尚、当日御参列の困難なお方は、当神社まで「形代」をお送り下さい。

一、日 時 六月三十日 午後六時斎行

一、場 所 射水神社 拝殿前

一、形代の扱い方：御家族の方々のお名前と年齢(数え年)とをご記入の上、

身体を撫で、息を三度吹きかけてから御参拝、又は郵送下さい。

形代が不足の場合は半紙で適宜お作り下さい。

一、初穂料 志(こころざし)ですが、一世帯、二千円程度お納め下さい。

(ご持参又は同封の郵便振替をご利用下さい。)

にんぎょう

人形清祓式の御案内

一、日 時 六月三十日 午後六時斎行

一、人形受付 午後一時～午後五時迄

一、初穂料 お心持ち

〈追記〉御参拝された方には「茅の輪守」を授与いたします。「形代」をお送り下されば同様にお取扱いします。



社務日誌

〔十二月〕	
一 日	朔日祭 あけぼの敬神講参拝 チプライダルフェアー
二 日	大和月次祭
三 日	初詣交通関係懇談会
四 日	北陸神青協理事会、 岸谷権禰宜出向
五 日	高岡・新湊支部会 あけぼの敬神講参拝
六 日	初詣打合せ会 天長節
七 日	除夜祭
八 日	歳旦祭・大祈願祭 あけぼの敬神講
九 日	三日まで初詣茶会、参拝者接待
十 日	消防出初式
十一 日	左義長
十二 日	あけぼの敬神講参拝
十三 日	宮司東京出向（宮内庁等） 青葉会初詣旅行
十四 日	責任役員会
十五 日	朝日祭 あけぼの敬神講参拝
十六 日	高岡志賀野ライオンズ参拝、宮司講演
十七 日	あけぼの敬神講参拝 高岡市護国神社春季例大祭 高岡市護国神社大祭後日祭
十八 日	日吉社春祭 大祭前祭
十九 日	射水神社春季例大祭
二十 日	大祭後日祭
二十一 日	院内社春祭 植樹祭
二十二 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十三 日	あけぼの敬神講参拝
二十四 日	節分祭
二十五 日	協賛会新年会
二十六 日	神道青年全国協議会参拝
二十七 日	大和月次祭
〔一月〕	
一 日	朝日祭 あけぼの敬神講参拝
二 日	天長節
三 日	除夜祭
四 日	歳旦祭・大祈願祭 あけぼの敬神講
五 日	三日まで初詣茶会、参拝者接待
六 日	消防出初式
七 日	左義長
八 日	あけぼの敬神講参拝
九 日	宮司東京出向（宮内庁等） 青葉会初詣旅行
十 日	責任役員会
十一 日	朝日祭 あけぼの敬神講参拝
十二 日	高岡志賀野ライオンズ参拝、宮司講演
十三 日	あけぼの敬神講参拝 高岡市護国神社春季例大祭 高岡市護国神社大祭前日祭
十四 日	日吉社春祭 大祭前祭
十五 日	射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （主催）射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （場所）射水神社境内（特設舞台にて雅楽演奏） ※雨天の場合 射水神社參集殿
十六 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十七 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十八 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十九 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十一 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十二 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十三 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十四 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十五 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十六 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十七 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十八 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十九 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
〔二月〕	
一 日	朔日祭 あけぼの敬神講参拝 チプライダルフェアー
二 日	大和月次祭
三 日	初詣交通関係懇談会
四 日	北陸神青協理事会、 岸谷権禰宜出向
五 日	高岡・新湊支部会 あけぼの敬神講参拝
六 日	初詣打合せ会 天長節
七 日	除夜祭
八 日	歳旦祭・大祈願祭 あけぼの敬神講
九 日	三日まで初詣茶会、参拝者接待
十 日	消防出初式
十一 日	左義長
十二 日	あけぼの敬神講参拝
十三 日	宮司東京出向（宮内庁等） 青葉会初詣旅行
十四 日	責任役員会
十五 日	朝日祭 あけぼの敬神講参拝
十六 日	高岡志賀野ライオンズ参拝、宮司講演
十七 日	あけぼの敬神講参拝 高岡市護国神社春季例大祭 高岡市護国神社大祭後日祭
十八 日	日吉社春祭 大祭前祭
十九 日	射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （主催）射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （場所）射水神社境内（特設舞台にて雅楽演奏） ※雨天の場合 射水神社參集殿
二十 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十一 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十二 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十三 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十四 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十五 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十六 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十七 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十八 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十九 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
〔三月〕	
一 日	朔日祭 あけぼの敬神講参拝
二 日	白山比咩神社へ神樂講習出向
三 日	石王丸実習坐女、 協賛会会合
四 日	神社庁主催親子参宮旅行、宮司出向
五 日	月次祭
六 日	神社庁協議員会、宮司出向
七 日	朝日祭 あけぼの敬神講参拝
八 日	沢田誠前奉贊会長通夜に宮司出向
九 日	大和月次祭
十 日	高岡志賀野ライオンズ参拝、宮司講演
十一 日	あけぼの敬神講参拝 チライダルフェアー
十二 日	高岡市護国神社大祭前日祭 高岡市護国神社春季例大祭
十三 日	日吉社春祭 大祭前祭
十四 日	射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （主催）射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （場所）射水神社境内（特設舞台にて雅楽演奏） ※雨天の場合 射水神社參集殿
十五 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十六 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十七 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十八 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十九 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十一 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十二 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十三 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十四 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十五 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十六 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十七 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十八 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十九 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
〔四月〕	
一 日	朔日祭 あけぼの敬神講参拝
二 日	白山比咩神社へ神樂講習出向
三 日	石王丸実習坐女、 協賛会会合
四 日	神社庁主催親子参宮旅行、宮司出向
五 日	月次祭
六 日	神社庁協議員会、宮司出向
七 日	朝日祭 あけぼの敬神講参拝
八 日	沢田誠前奉贊会長通夜に宮司出向
九 日	大和月次祭
十 日	高岡志賀野ライオンズ参拝、宮司講演
十一 日	あけぼの敬神講参拝 チライダルフェアー
十二 日	高岡市護国神社大祭前日祭 高岡市護国神社春季例大祭
十三 日	日吉社春祭 大祭前祭
十四 日	射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （主催）射水神社奉贊会・観月祭実行委員会 （場所）射水神社境内（特設舞台にて雅楽演奏） ※雨天の場合 射水神社參集殿
十五 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十六 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十七 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十八 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
十九 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十一 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十二 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十三 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十四 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十五 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十六 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十七 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十八 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。
二十九 日	尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。

（仮称）観月祭～月影と悠久の調べ雅楽～

主催 射水神社奉贊会



昨今、我が国の文化・伝統について感心が高まりつつあります。この大きな要因の一つは、眞の国際化に向けて、我々日本人の日本人としての自覚の脆弱さを顧みての機運の高まりでもあります。

そこで我々射水神社奉贊会におきましても、万葉の昔より日本人が持ち続けたであろう「雪月花」の美意識を再認識し、我が國伝統の「雅楽」を楽しみつつ、眞の国際化に向けて、あるべき日本人的姿を参加者それぞれに感じ、そして各々の心に持ち帰つて戴きたく、下記の如く実施する運びとなりました。

記

〔日時〕 平成十六年十月九日 午後六時 開演（予定）

〔主催〕 射水神社奉贊会・観月祭実行委員会

〔場所〕 射水神社境内（特設舞台にて雅楽演奏）

※雨天の場合 射水神社參集殿

〔出演〕 福岡町洋遊会 富山県神社庁雅楽部 他

尚 駐車場は古城公園内北駐車場等ご利用いただく予定であります。



越中の食彩

中尾 清園堂

社長 中尾 吉成

夏の菓子『葛餅』

くずもち

も能々ふの やそおとめら可 くみ万かふ
寺井の上の かたかごの花 (万葉集 卷19)

(万葉集 卷19)

「葛の花」は、大伴家持が越中国在任中、その美しさを歌に詠みこむほど愛らしく、又我が国の国民に親しまれた植物で、葛の根から採る葛根の効能は多く、発汗・解熱・緩和作用があり、血行を良くする作用も知られています。

葛餅は、餅菓子の1種です。万葉時代にカタカゴと言われたカタクリの地下茎からとった澱粉が、ワラビの根茎からとったわらび餅とともに餅に作られ、山間部ではかなり古くから主食とされていました。しかし、餅菓子としては14世紀前半から16世紀後半に作り出されたようです。

本格的には、純粹な葛粉を小麦澱粉粉に混ぜ、蒸して作り上げ、これに黒蜜ときな粉をかけて味わいます。尚、葛粉に砂糖を加えて練つたもので餡を包んだものが、葛饅頭、それを桜の葉の塩漬けで包んだものを葛桜と言います。

葛の透明感が、涼しさを感じさせ夏の和菓子には欠かせません。また、風流を好む日本人の味覚に最も適した甘味として、愛されています。



ご結婚おめでとうございます。

御神恩をいただき、幸おおからん事を。(十二月一日～五月三十一日)

十二月	菫子 竜太・千夏 様	杉本 裕一・聰子 様	仲谷 昌敏・裕美 様
	川上 幸司・由佳 様	麻谷 政宏・久美子 様	津田 昌明・真樹 様
	山根 功嗣・有香 様		
一月	笹村 猛・映子 様	原 正吉・由布子 様	
二月	亀田 薫・依理子 様	長徳 一義・香織 様	江川 尚之・紀子 様
	屋敷 隆・美貴子 様		
三月	浦上 耕一・響子 様	茶木 淳一・智子 様	舟瀬 諭志・真理 様
	沢田 博紀・奈緒美 様	小林 敬・もと子 様	新森 靖浩・直子 様
	広田 修治・直美 様	松島 啓時・真樹 様	横越 俊彦・優子 様
	田中 基和・英子 様	沙 文浩・幸惠 様	廣川 国章・えりか 様
	国田 剛・康代 様	藤坂 正彦・麻里 様	藤川 昌也・正美 様
	廣川 一昌・玲江 様		
四月	田中 武志・麻美 様	能登谷 綾也・絵里 様	野島 宏訓・八千代 様
	高木 康徳・有美 様	番匠 克己・麻子 様	山崎 佳洋・志美 様
	越水 英樹・加寿代 様		
五月	鳥山 忠志・きよ 様	山崎 洋之・忍 様	北山 義博・理恵 様
	草野 隆之・彩子 様	明前 憲一・静香 様	炭元 崇志・千春 様
	尾間 優一・加代 様	大塚 勇輝・沙登美 様	前馬 真・嘉美 様
	海棠 裕一・亜希 様		

『ふるさと 射水神社』

本海と二上山と射水川に囲まれたこの丘陵地帯は理想的な土地であつたに相違ない。

現在の城光寺、串岡、古府、国分、岩崎、桜谷にかけた一帯二上山の山麓には、その周りをとり巻くように多くの古墳が分布している。これらの大半は平野や谷あいの眺望がよく台地縁辺や、丘陵兆部にある。この丘陵部地帯こそ越中文化の發祥地であり、縄文期、弥生期の土器や石器類が各所に発見されており、早くからこの丘陵地に人類が生息していたことがわかる。これは庄川、小矢部川（射水川）が古い時代から氾濫を繰り返したことと思えば、この山麓の台地が最もよい生活の場であつたと思われる。太古の人々の居住地は、飲料水があり、鳥、魚介の食料がたくさん得られ、その上、土地が高燥で朝日のだだ射すところ、夕日の日照ると

本海と二上山と射水川に囲まれたこの丘陵地帯は理想的な土地であつたに相違ない。

現在の城光寺、串岡、古府、国分、岩崎、桜谷にかけた一帯は古墳群が点々と遺存し、得に桜谷古墳群は極めて雄大なもので、前方後円墳二基、円墳十基以上で構成され、主墳の前方後円墳は第一

号墳が全長

六二メートル、第二号

墳が全長五

〇メートルとされる。

第二号墳からは石釧、

管玉、紡錘車、銅鏡破片が出土して

おり、桜谷古墳群の中では最も

古く四世紀末から五世

紀初頭の年代があてられている。いずれにせよ四世紀末から六世紀後半の古墳群が多数存在し、大きな前方後円墳がいくつもあることは、当時の有力富裕な統治者の一族が二上山を中心とした地域に住居し、その頃の地方文化も進んでいたものであることが十分窺われる。



高岡市史 上巻 67 ページより(高岡市史編纂委員会編)

編集後記



社報第二号も無事発刊にこぎつけました。さて射水神社では来る秋、神慮を恐こみつつ、観月会を企画いたしました。現在の厳しい経済情勢の中、この企画が暗礁に乗り上げる事を危惧いたしましたが、地元のある個人及び各種団体の協賛をえて、ようやく実施に向け、具体的に動き出しました。皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

表紙の扁額は、大正十三年、射水神社宮司高野義太郎により、古城の地に遷座されてより五十年の記念すべき年を迎え、特に渋澤栄一氏に懇請し御揮毫賜りましたものでござります。この偉大なる先人のご厚情を思う時、当時の崇敬各位の並々ならぬご助力を知る事もできる、当社にとっての貴重な名宝であります。

発行 白水神社
発行所 〒933-10044
高岡市古城1の1
0766-22-3104
0766-21-3715
印刷所 キクラ印刷株式会社

参 集 殿 通 信

「結び」

あなたは結婚するに当たり、神主さんの許可をえましたか？

不可解なお話とお思いでしようが、結婚が当事者の意思によつて決定するものと考えるのは、近世の考え方といわれております。往古では家と家の縁組であり、それ以前には、家の神の司祭者（神主）である家長が神の意思に従い取り決めてきたようです。

そして家の神とは本来火の神と考えられ、根拠となる種々の事例が、民俗学の分野等から報告されております。数例をあげますと、北のアイヌに伝わる、爐辺にて結婚式を行なう例、八重山諸島（沖縄）では花婿が必ず火の神を拝む例など、枚挙に暇がありません。

以上の例から、我が国では、家の神はもとより、あらゆる神々に守られ、新しい家庭を築いてきた、と理解することができると思います。

射水神社では、結婚されるお二

人が、お世話になつたゲストは勿論の事、披露の宴にて、夫々のご家庭を守り続けてこられた、家の神をお招きしながら、麗しい伝統を伝えている「結びのセレモニー」を行なつております。

お二人が灯す「結びの火」は、必ずやご両家を守り続けた神の姿であり、今後ともお二人の命を育む火であることを祈りつつ。



うつくしの杜 ブライダルフェア

射水神社では、この秋以降に挙式予定のお二人をご優待し、本格的な和の神前式から披露宴までをご覧いただける『うつくしの杜ブライダルフェア』を開催いたします。「結い紐の儀」を始め、うつくしの杜ならではのオリジナリティあふれる演出、和の儀式のうつくしさをぜひご体感ください。

◆ブライダルフェア日程（予定）

平成16年 9月12日(日) 12:00~19:00

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

お問い合わせ電話番号

(0766) 22-0808

URL <http://www.imizujinjya.or.jp>

Eメール info@imizujinjya.or.jp

